

第16回学習懇談会 「社会の中の発達症」 異文化の人たちとして理解を

医療と福祉を考える長崎懇談会(医福懇)では市民公開講演会として、2023年6月10日に長崎ブリックホールにて今村明氏(長崎大学生命医科学域保健学系作業療法学分野教授)の講演を開催しました。以下、講演の概要をご紹介します。



医療と福祉

発行

医療と福祉を考える
長崎懇談会
〈連絡先〉
長崎市恵美須町 2-3
長崎県保険医協会
TEL 095-825-3829
FAX 095-825-3893

主な記事

- 講演会「社会の中の発達症」概要 1～5面
- 「医療と福祉のてびき」pdf版のおしらせ
- リレー投稿「大粒の涙に別れを告げ、笑顔が絶えない会に」
- 高次脳機能に障害をもつ子どもと家族の会よりよりホームズ代表 飯田彰吾 6面

発達症(発達障害)とは

発達症とは？
どのくらいのパーセンテージ？

最近の文科省の調査でいうと、特別支援が必要ない、いわゆる神経発達症傾向のある子は、小中学校の通常学級に8・8% (11人に1人) 在籍しているという数字がでた。特別支援学級あるいは学校を入れると数が増えていくだろう。もちろん、この全ての子が神経発達症という診断になるわけではないので、ずいぶんパーセンテージは下がるが、学校の現場で特別な支援ニーズがある人はこれだけいる。

一方、このうち校内委員会、特別な支援が必要と把握されているのはその3分の1だけで、支援が十分行き届いていない可能性がある。

「発達障害」から「神経発達症」へ

WHOの診断基準、アメリカ精神学会の診断基準では最近、「発達障害」ではなく、「神経発達症」という呼び方に変わってきている。障害者支援法など法律の言葉としては使われ続けるが、医療現場においては「知的障害」も「知的発達症」という呼び方が今後広がっていくだろう。

「自閉スペクトラム症」(以下ASD)とは

これまで自閉症と云ったり、アスペルガー症候群、特定不能の広汎性発達障害と言っていたものをひとつのカテゴリーとして「自閉スペクトラム症」(ASD)と統括している。ASD診断には次の2つの軸がある。



【お知らせ】

秋に開催予定の第33回定期総会記念講演は、事情により来年に延期します。活動報告・活動計画・決算・予算については、世話人会にご一任ください。

①社会的コミュニケーションの障害（人付き合いやコミュニケーションがうまくいかない）

●お互いに相手を理解し、わかり合える感覚の欠如（情緒的相互性の欠如）

●相手の発しているサインの読み取りが苦手（非言語的コミュニケーションの問題）

●仲間づくりが困難↓孤立したり、変わった人と思われる（積極奇異型）、いつもニコニコして相手の言うとおりにする（受身型）

②限局性・反復性の特徴（こだわりが強い、切り替えが苦手）

●パターン化しやすい、常動的反復の様式

●柔軟性のなさ（同一性への固執）

●ゲーム、アニメへの強い興味、石ころ等への興味（強度または対象が異常な興味）

●感覚刺激に対して過敏または低反応（感覚の問題）

●自分のフォーカスが当たっているところには非常に過敏、そうでないところには低反応か低登録（暑さ、寒さを感じない、トイレが間に合わないなど）になつてしまう。色んなところに社会的な生活の妨げになる可能性がある。

ASDの困難さとは

①社会的コミュニケーションで、「ハウレンソウ」（報告、連絡、相談）が苦手

相手の視点に立ちにくいので、いじめ、パワハラでは被害者にも加害者にもなりうる。周囲とのトラブルを説明しようとするほど、周りには自己視点に立って言っているように聞こえ、「言い訳、嘘、屁理屈」ととらえられてしまい、「何も信じられない」となつてしまう。どこまでがセーフでアウトかの常識がずれているので、社会的ルールの枠を超えてしまう。孤立型の人は、不登校、ひきこもりになるし、受身型の人は、他者から搾取される関係になったり、犯罪被害に遭いやすい。

②限局性・反動性秩序、優位性、ルールなどへのこだわり

変化に弱く、融通がきかない。切り替えできないなどの問題で色々とトラブルが起ることがある。他者のこともわかりにくい、自分の調子もわかりにくいので体調不良も出やすい。体調を保つのが難しいタイプもいて、単に行動だけみると自分勝手にみえるが、発達の眼鏡をかけると、このような発達の状態からきているのではないかと理解ができる。

「注意欠如・多動症」（以下ADHD）とは

ADHDは、「不注意」と「多動性・衝動性」という2つの軸で説明される神経発達症の一つである。特徴は次の通り。

●計画性がない、抑えがきかない（実行機能障害）。

●「急がば回れ」ができない（報酬系の障害）。

●時間を忘れて没頭する（時間処理機能障害）。

●注意があちこちにいく（注意転導性の亢進）↓ASDとの違い

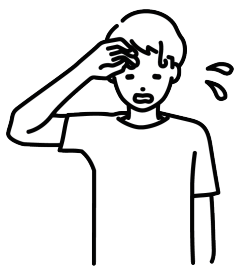
●男性：女性＝2：1（成人では、1.6：1）



①不注意（注意深く、計画的に実行する機能の障害）

不注意ミス（計算ミス、誤字・脱字）。注意集中の持続困難。聞いてないように見える。やり遂げることができない。順序立てることが困難（計画、整理、時間管理ができない）。必要なものをなくす等

②多動性・衝動性（行動制御の障害）



座っていてもそわそわ、もじもじ。席を離れる。静かに活動することができない（うるさいと言われる）。しゃべりすぎる。順番を待つことが困難。他人を妨害し、邪魔する（でしゃばり、干渉する）等。

ADHDの困難とは

①不注意↓不注意ミス・課題達成の困難

落とし物、整理整頓の困難。時間管理が苦手なので、遅刻・欠席、スケジュール管理の困難・先延ばし傾向。

②多動性・衝動性↓落ち着きがない

待つのが苦手で、考えるより先に行動(目の前の刺激に反応する)してしまうと色んな問題が起こってしまう。ASDとは違う対人関係の問題や健康維持が難しい(飲み過ぎや食べ過ぎが結構多い)。アルコール、ギャンブル、ゲームなどへの依存(刺激の強いものにひかれやすい)。交通事故や交通違反も多いと言われている。ASDとADHDは多くの人がそれぞれ併存している。学習の

問題、器用さも併存する。その中に隠し味的に愛着障害やトラウマが加わり、カクテル状態として色んなものが混在している。

それぞれの発達症
(社会の中でどのように生きていくか)

長崎にゆかりのある方を紹介する

「自閉症のうた」

(東田直樹氏)

現代の宮沢賢治と思う。透明感にあふれた素晴らしい文章を書かれる方。映画化もされている。長崎にも何回も足を運ばれている。

「僕は、発達凸凹の大学生」(山田隆一氏)

大学生活を人生の大海原に出ていくための一種の冒険ととらえてユーモアを交えて書いている。

途中でイタリアのヴェネツィアに留学されるが、自分の凸凹具合をかなり詳しく書いて、それをどうやってポジティブに捉えていくかをしっかりと書いてる方。最近は、講演活動、執筆活動、独学でwebデザインも勉強されている。

「罪を犯した発達障害者社会復帰への道筋」NHKのホームページ(ハートネット)に掲載。

このほかにも、プロの画家・イメージキャクターを描いている人・写真家など生きづらさを抱えながら生きている方々がいる。

発達の問題は、愛着やトラウマなどそれぞれの問題を抱えている。レジリエンス、こころの抵抗力を作っていくために、食事や睡眠、運動をバランス良く行うこと

は大事だが、発達症はネガティブだけでなく、ポジティブにも幅広く根ざしているものなので、特性の一部として理解していくのが大事。ニューロダイバーシティとは、「みんなちがって、みんないい」(金子みすゞ)と思っていたくといよい。

Youtube動画配信中!

「社会の中の発達症」の講演

公開期限：2024年6月30日

視聴には、パスワードが必要です。「いふくこん」ホームページにアクセスいただき、パスワード発行をお申込み下さい。

いふくこん

検索



医療と福祉を考える長崎懇談会に

あなたも入会しませんか

個人会員の年会費は500円です。お気軽にご入会ください。

【活動内容】

- ①会報「医療と福祉」の発行(年2回)
- ②学習懇談会の開催
- ③『医療と福祉のてびき』発行など

お問い合わせ・申込先

医療と福祉を考える長崎懇談会

TEL: 095-825-3829

〒850-0056 長崎市恵美須町2-3フコク生命ビル2階 長崎県保険医協会内

ニューロダイバーシティ (ニューロマイノリティの問題)とは

ニューロダイバーシティとは

ニューロダイバーシティは脳の多様性のこと。いろんなタイプの脳があるということ。どんな人のどんな多様性もあり得る。一人一人が神経多様者である。誰一人同じ人はいない。個性を大事にしていきましょう、という考え方。ASDやADHDなどの神経発達症は、「脳神経発達性の多様性の一つ」と考えられる。発達障害の「障害」は、混乱や不規則、凸凹の意味で、いわゆる「障害」という訳をせず、発達症や発達凸凹の方がよい。「左利き」も多様性の一つであり、野球やボクシングなど少数派ならではの強みが

ある。発達症は、パソコンに例えると、CPUなどは上等でも、メモリーが小さく、すぐフリーズしやすい状態と理解したら良い。他の人と違う脳の偏りの状態を「障害」とみるか、「才能」とみるか、「個性」とみるか見方によって違ってくる。

ハンス・アスペルガーは、「違っていることは劣っていることと同じではない。その人のプラスの面がでてくる場合がある」と述べた人。また、「TEACCH」という自閉症の支援プログラムがアメリカで発展してきている。自閉症は一つの文化として捉え、異文化で育ってきた人として捉えていきましょう、という

考え方である。

女性の発達症

女性の発達症は、少数派の中の少数派である。神経発達症の殆どは男性と思われていた時代が長い。1970年代は神経発達症の男女比が26:1だったが、最近の診断基準では3:1まで近接している。女性の発達症は、診断されてこなかったのが大きな問題。性自認の問題がある。症状を補うために並外れた努力をすること、上手に無意識的に隠そうとする。周りから気づかれぬように。また、対人関係もネット上の友人が中心になってきたり、同性との関係が

好評
販売中

PDF版 「医療と福祉のてびき2022」

医療福祉関係者の方から「パソコンの中にダウンロードしておけると、持ち運びが軽くなるのもっと使いやすくなる」とのご要望を受け、この「医療と福祉のてびき2022」をお持ちの方は、無料でPDF版がご利用いただけるようになりました。お持ちでない方は500円でご利用いただけます。

ご利用にあたりパスワードが必要ですので、以下の手順でお申込下さい。

- ① **ホームページへアクセス**「医療と福祉を考える長崎懇談会」の「医療と福祉のてびき」のページにアクセスしてください。
- ② **＜パスワードの申し込みはこちら＞をクリック**してお申込ください。
- ③ **パスワードが自動発行メールで届きます。**
- ④ 届いた**パスワード**を、**(「医療と福祉のてびき」)**のページに**戻り、＜PDFはこちら＞をクリックしてパスワードを入力**してください。



無料
ダウンロード



ホームページ
はこちらから

ご参加の皆さんから
寄せられた感想(抜粋)

女性の発達症について興味深かった。

ニューロダイバーシティという言葉はじめて聞いた。とても大事な視点である。その理解や啓発につなげることが大切。

ASDとADHDの特性の違いが理解できた。再度の学びや振り返りになった。

声のかけ方などに悩むことが多く、自分の支援方法を見つめ直す機会になった。

講演の時間が足りず、もう少し話を聞きたかった。

難しい。特定の男性とバ
ランスをとるのが難し
く、一方的な形の関係に
なる場合がある。家事を
行うのも苦手。女性のA
DHDは、男女比は一番
新しい基準で子どもでも
2:1、大人でも1.6:1と
多い。
ベストセラー「片づけら
れない女たち」(サリ・ソ
ルデン著)、「自閉症だっ
た私へ」(ドナ・ウイリア
ムズ)、「無限振子」精神科
医となった自閉症者の声
無き叫び」(ロビン・H)な
どの書籍にも女性の発達
症の困難さがしつかり書
かれている。

職場の発達症(どのように 少数派の特性を活かすか)

職場での困難さ (比較的多いもの)

ASD

ホウレンソウがうまく
いかない。電話やオンラ
イン対応、チームでの対
応が苦手。丁寧すぎてひ
とつの仕事に時間がかか
りすぎる。同じミスを何
度も繰り返す。言い訳に
聞こえる、など。はじめは
優しくしていた上司や同僚
もだんだん疲れてしまう。

ADHD

遅刻や忘れ物が多い。
大事な書類をなくす。不
注意ミスが多い。仕事の
優先順位を間違える。
ついつい一言多かったり、
失言、暴言が多い。会議中
は眠ってしまう。仕事中小
しゃべりが多いなど、上司
から叱られ、同僚からあき
れられる。



ニューロマイノリ ティ人材雇用促進

神経発達症の方は比較
的IT企業で活躍する方
が多い。TEACCHプログ
ラムでは職場環境調整を

発達症の強み

強みは症状の困難さの
裏返しと捉えてほしい。

〈ASD〉スペシャリスト
になるのに適した資質

強みが活かせる可能性の
ある職種・IT関係者、技
術者、製造業者、学者など。

●社会的コミュニケーション
の問題↓常識にとらわれ
ないユニークな発想力。
他者とは違った視点で物
事をみることが出来る。

●限局性・反復性の問題
↓自分が納得したルール
はきちんと守るまじめ
さ。自分が興味、関心を
持つものへの熱心さ。パ
ターン認識・思考の強さ。
細部への強さがある。

〈ADHD〉狩猟民族の末
裔であるとみればよい。
いつもあちこちうろろ
ろしていて獲物をみつけ
たら一直線に仕留める。

狩猟民族としては、特定
の①新奇な②スリルを
感じる③すぐに手に入
る(活動への過集中をう
まく活かすこと)。

●多動性・衝動性は、積極
的、活動性が高い。思い
きった決断ができる。発
想力(ひらめき)がある。
異文化の人たちとして
理解していくことは大事
である。

リレー投稿

大粒の涙に別れを告げ、
笑顔が絶えない会に高次脳機能に障害をもつ子どもと家族の会
よりよりホームズ代表 飯田彰吾

「よりよりホームズ」

メールアドレス



yoriyorihomes@gmail.com

高次脳機能に障害をもつ子どもと家族の会よりよりホームズ(以下、よりよりホームズ)は、小児期に高次脳機能障害を発症したかその疑いのある子どもとその家族で構成されており、現在、長崎県内9家族によって活動しています。

高次脳機能障害は、交通事故や脳の病気等を原因として発症し、注意障害や記憶障害、遂行機能障害などの症状が見られます。小児期の高次脳機能障害は症例が少なく、身近にロールモデルがないこともあり、高次脳機能障害を抱えた我が子との日常的な接し方、進学

や進級についての選択など、親は我が子の今そこにある未来に大きな不安と悩みを持っていました。



私の長女は小学1年生の時に交通事故に遭い、脳外傷から高次脳機能障害を発症しました。注意障害や社会的行動障害以外に、疲れやすく、感情のコントロールがうまくできない、順序よく物事を進行することができない、などの症状があります。進学する際も、地域の中学校の特別支援教室なのか、特別支援学校の身体障害か知的障害がいいのかなど、目の前に選択肢はたくさんあるものの、選択した先の姿がうまく思い描くことができずに進学先の決定に大変困りました。

同様の困難は他の家族も抱えています。県内の高次脳機能障害の当事者と家族は、長崎こども・女性・障害者支援センター内に設けられた長崎県高次脳機能障害支援センターの働きかけにより、2018年から交流を始め、2022年5月によりよりホームズを発足させ自主的な活動を開始させました。年間に、長崎県高次脳機能障害支援センターと共催の研修会を1回、よりよりホームズ主催の交流会を3回開催しています。



2018年に出会った頃は、我が子の話をして大粒の涙を流していた会員が、今では集まれば笑顔が絶えないようになりました。これこそ、当事者と家族の会の持つ力、当事者と家族の会を作る意義があるのだと実感しています。

高次脳機能障害は見えない障害とも言われています。見えないからこそ、会の活動を通じて社会に向けて障害の実態を知らせ、我が子たちが生きていくための社会的環境を整えていきたいと考えています。

今回、『医療と福祉』誌上でよりよりホームズを紹介する場を設けていただき大変嬉しく思います。様々な団体の皆さんと協力していきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願ひします。